

ネパールに贈る子ども病院

「顔の見える援助」に共感



安藤忠雄さん

来春完成へ
4月にも着工

ネパール国内は小児専門病院が一つしかなく、5歳未満児の死亡率が日本の約

20倍。建設予定地はネパール南西部のプトワル市中心部から約1・5キロの国有地で約6・7畝。プトワル市が基盤整備を担当、現地に作った建設推進委員会（スルヤ・プラダン市長ら5人）が近く予定地の譲渡をネパール政府から受ける。建設資金は、毎日新聞社、会事業団への読者の寄金の

ほか、松下電器産業労働組合（古賀伸明委員長）▽大阪ガス小さな灯運動（森忠利・代表幹事）▽東京渋谷ライオンズクラブ（笹田公重会長）が協力。AMDA本部とAMDAネパール支部（ラメシュワル・ポカレ医師ら約25人）が病院の建設、運営にあたる。

安藤さんは、日本建築学会賞、芸術院賞、建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞などを受賞。「阪神・淡路震災復興支援10年委員会」の代表委員を務め、彫刻のある、緑あふれる街

の再生に向けた活動もしている。毎日新聞の子ども病院建設キャンペーンを知り、協力を申し出た。

現地の気候や風土、技術

毎日新聞読者からの善意の寄金をもとにネパール・プトワル市につくる子ども病院の基本設計を、世界的な建築家、安藤忠雄さん（55）＝大阪市＝がボランティアで引き受けることになり、10日、その模型が完成した。2年前の阪神大震災の際にアジア・アフリカの途上国から寄せられた救援への「お返し」を目的に、国際医療NGO（非政府組織）のAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）と連携した「顔の見える援助」に安藤さんが共感し、協力を申し出た。今年4月にも着工の見通しで、来年春に完成の予定。

「世界の安藤」無償で設計



ネパールに建設が決まった安藤忠雄さん設計の病院模型

救援金にご協力を

ネパールの子どもたちに目に見える援助を実施するため、今回のキャンペーンは現地で進められている子ども病院建設計画に協力しています。救援金は左記へ郵便振替か現金書留で送金いただくか、直接ご持参ください。

〒530-51 大阪市北区梅田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「海外救援金」係（郵便振替・00970-9-12896-1）

【連見 新也】

建築の仕事でアジアと交流したいと思っていたので、私が設計することでネパールの建築に少しでも役に立てれば幸いです」と話している。

の1棟と平屋建ての1棟を渡り廊下でつないでいる。安藤さんは「震災救援のお返しに現地で役立つ病院を」というのは非常にいい。

約1000平方メートル、外来と救急処置センター、病棟（50床）などを予定。完成模型によると、明るさと清潔をイメージし、2階建て